



霜月を通り過ぎて早や師走に近づいてまいりました。比較的暖かみ秋の終りを過ごしてありました。朝の寒さがいよいよきつくなり暗いということもあり布団の下が暖かぬけられないというお恥かし朝の出勤となっています。今年のおめじは11月9日のヒコクマ夕方の5時くらいからライトUPお夕食を食べていたときからこの景色を見せてあげられたらと残念に思っていたら御寝床用意係の私は1人、この素晴らしい幽玄の世界に身を置くことに決めます。こんないい処に連れて来て下さった神様に感謝するのとします。真実に来たおめじは12日はハウハウと散りはじめ陽を浴びながらおたどうだん、美しい照葉となり11月終りまで頑張ってくれました。松茸も半ばくらいまで出て細々と長い同業しめた不思議な年でした。25日過ぎればこの歌のとおり淋しくなりました。

山里は冬がさびしさを下りける
 人目と草とかれぬと思へば
 源宗于 (Miyazono no Kuniyuki)

長男允は例年のように東京池袋の「ハツ」朝市に出かけてまいりました。次男允は小浜線沿いにある建設省管理事務所のアルバイト。それと冬を過ごす場所がなくて安堵しています。尤も允は12月の、ほいで戻りますので1、2、3月は冬場石馬允はどうしたらお客様に奉じた方がいいところを戦うことになっていけるか……。

還暦を迎えてからすでに5年が経ち11月10日の年金受給対象となった石馬允当主正介。このころ、お父さんの仲介で、信濃宮神社の総代長として今年も式年遷宮を迎えた内宮外宮参拝を早くから決めてその日11月6、7日を楽しみに待ちました。昔からお伊勢参りは「たれも」望み、見るとの聞く物、食する物を心から楽しんだ一大娯楽。30名限定で買ったお餅とこし又大騒ぎとなりお陰でこの私は重要な1人とわりお旅に参加することになりました。舞羽初動には別れていませんが正介と一緒に何も飛ぶ事はなし十分楽しめ、神々しい雰囲気、深い内宮の参道と新しい建物(20年毎に新しく今年はお2回目です)に押し瑞穂の国の豊かさと繁栄を願った神様に感謝と祈りを捧げる神楽を見せていただく「常若」→美しいと永遠にめぐる思想を少し理解出来るようになり心持ちになった旅をして参りました。お父さんの、食協の支部長、観光協会副会長の毎年この時期に計画する研修旅行。今年も新歌舞伎座「仮名手本忠臣蔵」と観、2日目は浅草寺参りから東京カントリーという興味深いコース。これを20名限定ということでお集まりに大変お世話になりましたと反子母とともに参加。非日常の2日間楽しめた。カイトさん付き添いで知識の垣かたのいい旅となりました。